



令和6年3月1日現在

世帯数	1,016 戸
人口	2,309 人
男	1,146 人
女	1,163 人

ニュースポーツ 体験会

1月28日の日曜日、内田公民館にて「ニュースポーツ体験会」が開催されました。

参加者は、役員大人合わせ38名、子どもが9名の、総勢47名の参加者となりました。

競技内容は、前回も行われたポッチャと今回初めて行われるスウェーデン発祥のモルックが行われました。

推進員の佐藤さん、丸山さん指導のもと競技に参加させていただきました。



▲ポッチャ



▲モルック

第8町会 山本 秀樹

両競技とも簡単なルールで、子どもからお年寄りまで、気軽に参加できるのが特徴的でした。

競技が始まり、私が苦戦するなか、他の参加者の皆さんのフラインプレーに驚かされ、特に子ども達の活躍がゲームを盛り上げてくれました。

次回開催では、より大勢の方に参加していただき、競技を楽しみながら交流の輪が広がれば良いなと思うなか、体験会を終了する事ができました。

人権啓発視察研修

〈出発〉

小雨そぼ降る2月19日、内田公民館前から職員のお見送りを受け、総勢23名の満蒙開拓平和記念館、藤村記念館視察研修旅行のバスが出発した。車中参加者の自己紹介で、ほとんどの方々がしっかり学習をしてくと挨拶をし、バスの乗務員がその前向きな姿勢に感心をしていた。観光旅行であれば、男衆は出発と同時にビールを飲み始め、女衆はおしゃべりに興じるところだが、車中は比較的静かである。

〈憤怒 激しく怒る事〉

昭和11年国策による大量移民計画により、27万人が満州に渡っていった。その中には15、6歳のいたいけな少年達が義勇軍として8万5千人含まれていた。少年たちの送り出しには、現場の教師たちの勧めが大きく影響していたという。昭和20年8月9日ソ連軍の侵攻もあり8万人が命を落とした。無謀な国策に対し憤怒に堪えない。

〈右と左〉

政治信条を語るとき、「右か左か」「保守かりベラルカ」



▲満蒙開拓平和記念館の前でパシャリ

とよく使われる。当時のアジアへの侵攻は侵略かあるいはヨーロッパ列強からの解放か、意見の分かれるところであるが、言えることは政治の衰退が軍部独走を許してしまっただけで、政治が腐敗してゆくと、「極左・極右思想」あるいは「カルト宗教」に真面目な人ほどのめりこんでしまうことをすでに私たちは経験している。そんなこんなで今日の政治状況はちよつと心配である。

〈夜明け前〉

「木曾路はすべて山の中で

ある。」——文豪島崎藤村の夜明け前は、確かにこの書き出しで始まっている。私8年前記念館視察研修を前にして、文庫本全4冊買い揃え読み始めたが挫折してしまい未だに読み終えていない。藤村さんごめんなさい。明日から頑張ります。

〈雨の馬籠坂〉

朝方の雨もいよいよ本降りになり、外国人観光客が誰もいない馬籠宿を後にした。静かでのいい研修旅行であった。

第5町会 丸山 幸英

スタンプと絵本で野菜を好きになっちゃおう



▲オリジナルデザインのエコバッグが完成

1月26日(金)に福祉ひろばで、野菜にまつわる絵本の読み聞かせ、野菜スタンプで世界に一つだけのエコバッグ作りを行いました。(民生児童委員、内田公民館共催)

講師は、豊嶋さおりさん(絵本専門士・JPIIC読書アドバイザー)を迎え、参加した親子7組が絵本と作品づくりを通してふれあいの時間を過ごしました。

野菜の断面が描かれた絵本からは、どの野菜か答える元気な声が聞こえてきました。

内田地区ボランティア会が表彰されました!!



表彰状
内田地区ボランティア会
貴会が主催するボランティア活動は、地域社会の発展に貢献する素晴らしい活動です。この功績を表彰します。
令和6年1月26日
市長 武井 俊二

多年にわたりボランティア活動を率先して行ったことが評価され、内田地区ボランティア会が厚生労働大臣から表彰されました。

ササラまつりで、とうもろこしの提供、地区文化祭・福祉ひろばまつりで、おにぎりの提供、公民館花壇の花植え、調理室の定期清掃などの場面で活躍されています。



▲文化祭でおにぎりを握った時

メンバー募集中です!

人権啓発講座



1月18日(木)「人権啓発講座」を開催しました。(内田地区人権啓発推進協議会・内田公民館共催)

講師には、米山ゆり子さん(長野県生涯学習推進センター)をお招きし、聴覚障がいのある米山さん自身の生い立ち、生活の様子を聞き、参加者18名をグループに分けて声を出さない伝言ゲーム、手話体験などを行いました。

伝言ゲームでは、「雨」が途中から「傘」に変わって伝わったり、身体の動きだけでは伝わらなかったり、もどかしい気持ちを味わいました。

内田地区ウォーキング

3月2日(土)「内田地区ウォーキング」が開催されました。大人21名、子ども8名(内田児童館利用者含む)で、内田かるたの札となっている名所・旧跡を巡りました。

常楽寺では、貴重な『五百羅漢図』を住職の解説とともに見学しました。



▲常楽寺にて『五百羅漢図』を見学



▲馬場家住宅にて西澤館長による解説

約5000歩を歩く中で、大人も子どもも改めて内田の魅力を知る1日となりました。

つれづれ編集記

定年後、本格的にウォーキングを始めて15年になる。当初は、歩数や時間を伸ばすことにこだわったが、近年、体力の衰えとともに、ゆとりをもってウォーキングを楽しむようになった。

3月、待ちかねたように福寿草が顔を覗かせ、野辺や所々の庭先に、水仙、マンサク、...と春の花が続く。「この時期、この辺に、あの花が」と期待しながら歩き、それに出会えた時の喜びは大きい。

もう一つの楽しみは、北アルプスの眺望。季節はもちろん、時刻、天候(雲)などの組み合わせで、山は実に様々な表情を見せてくれる。なかでも、大気が澄み、視程の広がる初冬からの眺めが好きだ。穂高、常念から始まり、鹿島槍、五竜、はるか白馬三山の北方まで見渡せることも多く、雪によって、山肌も一段とくっきりと見える。

「内田地区ウォーキング」に参加した。地区内の旧跡や文物にふれ、「自然界だけでなく、こういう楽しみ方もあったか」と認識を新たにしました。

これから、いやでも老いは進む。少しでも楽しみの幅を広げながら、ウォーキングを続けていきたい。

第6町会 大和 義史